



「茂木町」

国内屈指のサーキットと豊かな自然で親しまれる町

道の駅もてぎは県内第1号の道の駅として知られます。

県内南東部に位置し南北に長い形状の茂木町。その北部には、県内屈指の清流・那珂川が東西に横断しています。かつての茂木町といえばこうした美しい自然に着目し、那珂川の鮎釣りや「やな」、名物のユズやシイタケを目当てに訪れる方が多かったのではないのでしょうか。そうしたかつての名物・名所

は今もそのまま残りますが、最近、茂木町のイメージは大きく変わりつつあります。たとえば国内屈指のサーキット「ツインリンクもてぎ」は二輪・四輪の国際レースが開催され、レースが開催される週末には県内だけでなく、全国から数万人もの観客が町を訪ねます。

食の面では、最近の名物として広くその名を知られるようになったバームクーヘンは販売に生産が追いつかず、品切れの日も珍しくありません。また、ヘルシーな食材としてテレビ番組で紹介されて以来、人気に火のついたエゴマは町内で食することもできますが、町の新たな特産品として注目を集めています。

こうした新旧両面が調和した茂木町の姿は、里山保全やごみのリサイクル化等に地道に取り組んできた成果といえるでしょう。

News

「ふみの森もてぎ」がオープンします

市街地の中心部に位置する文化・情報の拠点施設として、この7月にオープンする予定なのが茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」です。図書館、歴史資料展示室、蔵を利用したギャラリー、体験教室などからなる複合施設で、施設名は全国から寄せられた公募・投票により決まりました。



町名を冠した国内屈指のサーキット

「ツインリンクもてぎ」 「森の中のモビリティテーマパーク」として老若男女さまざまな人が楽しめます

1997年開業のツインリンクもてぎは、いわば車のテーマパークです。中心となるサーキットは、オーバル（楕円形）、ロードコースの両者を備える世界的にも珍しい造り。アメリカではオーバルのサーキットが多く建設され、有名な「インディ 500」もオーバル型のレーシングコースで開催されるレースです。過去には「インディジャパン」が開催されるサーキットとしての縁もあり、町はインディ 500の開催地として知られるインディアナ州スピードウェイタウンと姉妹都市提携協定を結びました。サーキットでは、今年も二輪の世界選手権 MotoGP や四輪の世界ツーリングカー選手権など、国際的なレースを始め、さまざまなイベントが開催されます。このほか、二輪・四輪の国内外の名車や ASIMO を展示・動態保存するホンダコレクションホールや、「森、とおもいきり遊ぶ」をテーマに話題のジップラインやキャンプのできるエリア、操る楽しさを体験できるモビパークなど、さまざまな人が楽しめる充実したレジャー施設です。



世界ツーリングカー選手権 メガジップライン つばさ モビパーク



●城山公園
鎌倉時代に築城され、茂木氏の居城だった茂木城の城跡。春はさまざまな種類の桜やろう梅、秋は彼岸花の名所で、小高い丘からは町を一望にできます。

茂木町の見どころ

●道の駅もてぎ
町の観光情報の発信や特産品・農産物の販売、各種イベントを開催します。話題のパウムクーヘンを販売するカフェスペースも人気です。世界的彫刻家・流政之氏作のオブジェや明治～大正時代にアメリカで活躍した日本画家・古田土雅堂が輸入した邸宅など、アートな見どころもあります。



●那珂川
天然の鮎・鮭が遡上する清流です。夏は鮎釣り（毎年6月1日の解禁）や水遊び、カヌーなどでにぎわいます。



●観光やな
質の上を跳ねる鮎のつかみどりなどを体験できる観光やな。大瀬のやなは那珂川最大の規模で、7～10月に設置されます。



●美土里館
町のエコ活動の中核施設で、生ごみや落葉などからミネラル豊富なたい肥を、廃食油からバイオディーゼル燃料を製造するなどのリサイクルを推進しています。



●石畑の棚田
農林水産省の日本の棚田百選にも認定された、美しい棚田。田植え、草刈り、稲刈りなどの農作業に参加・体験できるオーナー制も実施しています。



●鎌倉山
川岸にそびえる標高 200m ほどの里山ですが、約 100m の断崖がそそり立つ眺めは那珂川沿岸随一といわれ、「栃木の景勝百選」に選ばれました。秋から初冬には那珂川の川霧により雲海が見られることもあります。

●花の山（樹の花自然園）
約 3 万 5000 坪の里山には 20 種類の桜やツツジ、アジサイなどさまざまな花木が植えられており、5 月には全山が花々で染め上げられます。



profile

●茂木町
茂木町の歴史は古く、茂木城が築かれた鎌倉時代にさかのぼります。今の市街は、小高い丘に築かれた城の周囲に広がる城下町として発展しました。その後、江戸時代には周囲が細川藩領となるなどの変遷をへて、「茂木町」が誕生するのは廃藩置県後の明治 22 年（1889 年）です。昭和 29 年には周囲の村と合併して今の姿につながる新・茂木町が発足しました。ユズ・しいたけなどの特産品は以前から知られ、ふるさと納税（一定額以上）の記念品では当初、ユズを使用した調味料等も贈られていました。

▶面積：172.69 平方 km
▶人口：13,029 人（4,562 世帯）